

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】：外来化学療法患者に対する診察前薬剤師面談のアウトカム評価

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院薬剤部

【研究責任者】 荒木 博陽 （薬剤部 教授・薬剤部長）

### 【研究の目的】

外来で抗がん剤治療を行う患者さんの増加に伴い、安全な抗がん剤治療を行うために薬剤師の役割もますます重要となってきています。これまでは、医師の診察後に薬剤師が患者面談を行い、副作用モニタリングや生活指導、また必要に応じて処方提案や検査の依頼などを行っていました。しかし、医師の診察後に抽出された問題点に対する介入は、外来で別の患者さんの診察を行っている医師の妨げになることや、対応が次回の受診以降になることも生じていました。

これらの問題点を改善するため、愛媛大学医学部附属病院（当院）では消化器腫瘍外科をモデル診療科として、医師の診察前に薬剤師による面談（診察前面談）の取り組みを開始しました。本研究では、診察前面談における薬剤師の有用性を検討します。

### 【研究意義】

診察前面談を行うことで、薬剤師による処方や検査の提案などがスムーズに行え、治療の継続に寄与できることが期待されます。診察前面談の有用性を示すことで、その普及が期待されます。

### 【研究の方法】

（調査の対象となる患者さん）2015年6月～2016年10月の間に当院の消化器腫瘍外科にて外来で抗がん剤治療をした患者さん

（利用するカルテ情報）年齢、性別、抗がん剤の内容、面談に要した時間、薬剤師の介入内容（処方・検査の提案など）、副作用

### 【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等

で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。  
他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 准教授 田中 亮裕

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.chime-u.ac.jp